

# 公明党 鈴木いくお

## 市民にわかりやすい行政サービス

### 《生活保護変更決定通知書等について》



平成 17 年の第 1 回定例会で『保護決定通知書等内容をわかりやすくすべき』との間に「わかりやすい様式にする」と答弁しているが全く変わっていない状況だ『単純明快にわかりやすくすべきだ』と質問いたしました。

市は、「システムを変えるのに多額の費用がかかるのでケースワーカーがきめ細かな対応をしていく」と答弁しました。しかし、わからない通知書等を出すのではなく、『予算を付け早期の解決をすべきだ』と主張しました。

### 《予算書、もっと知りたい今年の仕事(ニセコ町)について》

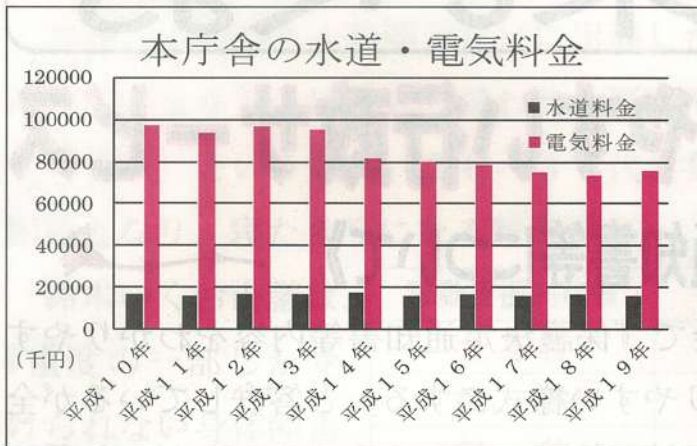
ニセコ町では、中高生でもわかりやすい予算説明書を作成しているがせめて船橋市でも『新規事業ぐらひは、市民にわかりやすい予算説明書を作成すべき』と質問しました。市は、「予算がかかるので、まずホームページをわかりやすいものにしていく」と答弁しました。

### 《児童扶養手当の重要なお知らせ等について》



船橋市が発行した「児童扶養手当の受給に関する重要なお知らせ」は、漢字が多く見づらく船橋市独自で作成したのではなく、厚労省からの様式になっているのではないか。そうであれば『船橋市独自で作成し市民にわかりやすい創意工夫したものにすべき』と強く要望しました。

# ムダゼロと省エネについて



	水道料金	電気料金
平成10年	16,346千円	96,852千円
平成11年	15,470千円	92,848千円
平成12年	16,399千円	96,051千円
平成13年	16,084千円	94,474千円
平成14年	16,950千円	81,011千円
平成15年	15,466千円	80,114千円
平成16年	16,308千円	78,620千円
平成17年	15,503千円	74,489千円
平成18年	16,082千円	73,390千円
平成19年	15,751千円	74,980千円

## 《節水》



洞爺湖サミットのホテルで男性用無水小便器が導入され、CO<sub>2</sub>削減と水道代0円。年間約300トンの節水。女性用のトイレ自動洗浄器においても自動的に大・小を判別し、水の自動調整で高い節水効果があります。



## 《蛍光灯の省エネ》

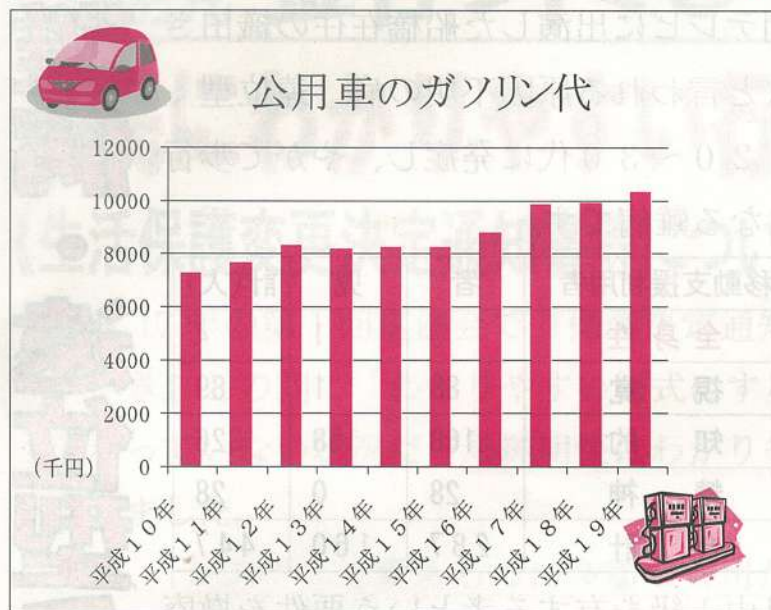
省エネ型インバーターで消費電力最大50%削減。3段階調光機能により消費電力が大幅に削減できます。葛飾区・江東区役所庁舎5400台、富山市民病院2500台等、ホテルや企業など多数の実績があります。照度センサーや人感センサー機能付き蛍光灯で、従来の鋼鉄型安定器より消費電力最大70%削減されます。

『庁舎においてトイレの節水対策や蛍光灯の省エネ対策を積極的に取り入れ徹底したコスト削減をすべきだ』と質問しました。

市は、「多額の工事費が伴うことから現在のところ、一部に試験的に設置して費用対効果を研究しており大規模な設備改修時に検討してまいりたい」と答弁しました。



# 公用車のガソリン代の削減を！



	ガソリン代
平成10年	7,289千円
平成11年	7,688千円
平成12年	8,340千円
平成13年	8,208千円
平成14年	8,253千円
平成15年	8,280千円
平成16年	8,812千円
平成17年	9,872千円
平成18年	9,910千円
平成19年	10,366千円

## 《エコドライブについて》

①ふんわりアクセル ②加減速の少ない運転 ③早めのアクセルオフ  
 ④エアコンの使用を控えめに ⑤アイドリングストップ ⑥ガソリンはこまめに補給の6項目を徹底することでもコスト削減、CO2削減に貢献することは間違いありません。

『職員には、公用車を使用する際、注意事項などのチェックや徹底したコスト削減を実施すべき』と問いただした。

市は、「公用車の利用に関する適正化を図り、運転命令時や車両の貸出時には、鈴木いくお議員からご指摘のあったカーエアコンの使用やアイドリングストップ、やさしいアクセル発進等、エコドライブの推進について、職員への意識の啓発を図る」と答弁しました。



# 障害者の移動支援の拡大を！

8月31日の24時間テレビに出演した船橋在住の織田さんは、100万人に数人と言われる原因不明の病「遠位型ミオパチー」という難病。20～30代に発症し、やがて歩行困難となり、寝たきりになる難病です。

鈴木いくお市議は、『重度の一部しか受けられない身体障害者手帳保持者で全身性障害者（児）両上

移動支援利用者	者	児	計(人)
全身性	3	1	4
視覚	88	1	89
知的	168	158	326
精神	28	0	28
合計	287	160	447

肢及び両下肢の肢体不自由1級を有する者という要件を撤廃し、軽度、中度、重度に関係なく移動支援を受けられるようにすべきだ』と質問しました。

答弁で明らかになった『移動支援利用者数は全身性障害をお持ちの方が4名しか利用してない』現状を踏まえ、『あまりにも市の対応は冷たいのではないか、せめて重度の一部のみでなく重度、中度の方にも移動支援が十分受けられるように予算を拡大すべきだ』と迫った。

しかしながら、市は、移動支援事業においては、『現在のところ対象者の拡大を図ることは困難である』と弱腰でした。

引き続き、粘り強く移動支援事業の拡大を図られるようガンバッテまいります。

難病・遠位型ミオパチーを救え！！

